



ひびだより No.11 2015.1.30

お知らせ

先日、氷点下の日に火田で寒踏みをしていました。火田に降りた川は雪の下で青々という寒さに耐えているようです。小さな芽を踏みながらとかわいそうに思います。霜が主には雪に変わってしまふ夏の火田が草花の多いように、上からぎゅぎゅと力をこめて踏みつけます。足に力をこめては火田を見出し、ある友人の話を思い出していました。

農業仲間のその友人は、月見サウして自然農法で自給自足を始め、収穫が増えたら野菜をほいという人に出荷して、田火田も増え、田火田に満ちた見えません。ところが野菜を出荷するのは少しづつやめていこうと思うというのです。自給自足で自分で作った野菜を自分で食べている時には、自分の作った野菜がかわいくて、その火田でとれただけの量を食べられればいい、少し量が減ってもいいしと満足していたのに、出荷に人の子に渡すようにすると、もっと見栄えよく少しでも大きな野菜を作らなきゃ、善父もよく分けたから作り手を増やして...とかんがえているうちに、きれいに洗った野菜の方が喜ばれる？自分でおいしいと思っているけど、これに本当においしいのかなと色々と気がかりすぎて苦しくなってきた...そうです。「火田のありのまま、野菜たちそのままだいいってさ、思えばいいからって、何のためにやっているんだろう、楽しくないってさ。」田火田で作るのは自分で食べる自給自足にして、生計は別の人と立てるのもいいかな、と思うようにして、でもね、もう人の目を気にすることなく、自分の食べたものを採れるだけ作ればよかったって思った、ほんと楽しくってさ。」その笑顔が印象的でした。

その話を聞いた時、東京で子育てしていた頃のことを思い出していました。研究室に勤めていた時は「先生のお手伝いはよく話を聞かなくてね」等と評価されるような(単にほめていただけでいいと喜んでいました)と、世間の目をきくくして、我が子のいいところも気にするようになったと受けとめ、子育てでよかったものを、こんな子育ての価値を伝える自分も嫌にならなかつた、お受験などでもかかっている世の中で、親自身も自然のふだの遊び子育てをしたいなあと思うきっかけのひとつだったかもしれません。

野菜の計からの価値？の話を自分の子どものことを連想するのは、ちゃんと野菜が育つかもしれないが、どちらか愛情を注いで育てて、我が子、どこから可愛いい、笑える、ひびと火田の火田を同時に進行している子は、やはり子育てと自然の環境を大切に育つ火田作は、人の子とかがつくってあると思うことが度々です。

：美和子

寒さをねとせ、遊びに夢中の子供たち。どんな寒い日も全く室内に入らない人がほとんどです。「風も雪もともだちだ」の歌を初めて紹介した時、「ふけの風、つめたやない、きみとぼくたちはとばかりだ」のことで「ひびの歌みだね」とおおくりさん達、このおおくりさん達と一緒に遊ぶのもあと32日...

保護者会のお知らせ

日時 2月10日(火) A.M. 9時30分～

場所 追分公民館

・来合は、ご来願いします。

都合により
2/10(火) 追分公民館
2/13(金) ランチ
に変更します。

・いんやさん 団体登録代金(2014.12月～2015.11月)を納入袋にて請求書にていただきました。よろしくお願ひいたします。

・おおくりさんとスタッフだけのランチを2/20(金)～21(土)に初めて行います。どんなランチにしようか楽しみです。おおくりさんには、詳しいお知らせチラシを配布いたします。

おおくりさんへの お知らせ

真冬の野鳥の森へ出かけよう。下記よろしくお願ひいたします。

日時 2月5日(木) A.M. 9時15分前後

P.M. 2時

集合解散場所 とんぼの湯 横芝生広場

持ちもの 防寒着、水筒、帽子、手袋、スノボ、スキー、雪靴、バスタオル、タオル

・おおくりさんは、おおくりさん達

・天候次第で都合により中止の場合の連絡はA.M.7時30頃までいたします。

建材が不足しています。ご協力を願ひいたします。

おおきいくみだより



かるた取りが好きな子ども達が多い今年度の「おおきいくみ」。一年を通して「かるたしてもいい？」と声がかかります。泥かかか。水に濡れ。雪をかぶった過去のダンスールかるたはそれとも元気です。松ぼりり達もおもしろなかるた取りを見たり。混ぜてもらったりして。絵を覚え。少しづつ取れるやうになっていきます。今年も自分達で作るこいのぼりを作りました。自分達で字を選び。文を考え。絵を描きました。みんなの競い合いを紹介します。

- ㊦ んばん つくった りおこ (理央子)
- ㊩ がいがぐり と かぜかみんと けいたは ともだちだ (蒼空)
- ㊪ ずまきが まちを おそっている (悠太)
- ㊫ ええんさんじゃ が きにぶつかった (朝次朗)
- ㊬ ひさま だいすき (俊林)
- ㊭ かぶとむし が いるよ (行人)
- ㊮ いのぼって たんけん (せつ)
- ㊯ わかたが かぶとむしと おもろう (真寛)
- ㊰ んだま たのいいな (陽麗)
- ㊱ こみが たべた からあげと はんぱーぐ (ひ美)
- ㊲ むくて さむい (俊林)
- ㊳ ろくまちゃんと しもうまくん (理央子)
- ㊴ いかと くだものは おいしいよ (陽麗)
- ㊵ みが ながいよ (俊林)
- ㊶ らくちは じばにやん が にやにやにやにやにや (蒼空)
- ㊷ のしい たんけん れっごー (平蔵)
- ㊸ きゅう が ばくはつした (遙人)
- ㊹ みきが おわったら てーぶるで はなはけきと すいかを たべました (ひ美)
- ㊺ んてんぼうずが つぎに おきたら あさだった (俊林)
- ㊻ うもろこしと かんかん と きゃべつと じゃがいもと ひっきーさんと ちいさな ぶるーべりー (求)
- ㊼ っちゃんの おうちに あそびにきてね (たつめ)
- ㊽ いがた と はかの と いばらぎと かみいざわと みはたと みと と どうきおと きおと と がいこくと かざしまちやう (求)

- ㊾ りえは たのいいな いちばん いちがつかえて たのいいな (奏)
- ㊿ おかしな おいかけのねこ (奏)
- ㊿ んびり したいいな きよさと ちゃんぶ (昊瑛)
- ㊿ るは たのいいな (陽麗)
- ㊿ じょうき とびたつた (奏)
- ㊿ じごんに のぼって たのレかった (遼香)
- ㊿ んな おじさん (昊瑛)
- ㊿ レが ひかひか まぶしいな (朝次朗)
- ㊿ っくらな よる おどけがでた (真寛)
- ㊿ んなが さんでいる 7かいだてと 4かいだての おうちごと と しかんせん (求)
- ㊿ されが つくった ゆきだるま (武蔵)
- ㊿ たか が おもいでるよ (悠太)
- ㊿ もと げんげ と しかんせん (求)
- ㊿ まが せんじおし たべちゃった (俊林)
- ㊿ きだるま を つくった りおこちゃん (理央子)
- ㊿ っとは きもちいい (平蔵)
- ㊿ いおん じゃなくて めらめらいおんだよ (蒼空)
- ㊿ やくちくを しょうてい びくにくく へいこう (遼香)
- ㊿ あげん してる ゆきだるま (明日香)
- ㊿ ーお のぶくきて みんなで おでかけ (せつ)
- ㊿ けつとにのって うちやうに いらちゃった (ひ美)
- ㊿ んびーが たたかっている (遙人)

そして かるた大会。星ちゃん奏ちゃんは お休みでした。朝次朗、行人、俊林が「チームを組んでいいな」と提案して「大きな」と「小さい」をそれぞれで作りました。チーム分けを希望しました。そのチームも作戦から 楽々...。読み札を 読み出ると。とっさの間に 一行の方向へ行き。読み札に 重なるやうに 割れ目を入れた。その横で 合辞。違う所は 読み札を「はい」と取っていく。遼香、陽麗、朝次朗、俊林、昊瑛、平蔵、行人。読み札は みんなの 勢いと 熱気で 雪が舞い。違う読み札を 入れ替えて おどけを して 松ぼりり さん達に 大きな 声で「違うよ! 行かぬよ」と 叱咤! 今年 できた かるた も まったく どの 賞状もない 新年 楽しんでほしい。 (敬承略) 真弓

ひっぴの森の動物たち あいあとなんねだ？ <キツネ>

森も田畑もすっかり雪景色になりました。ひっぴに行く途中、広い原。はや畑が朝日をあびて光り輝く真っ白な様子と、青い空のコントラストが美しく、いつも車窓からみつめています。その景色を横切るように てん、てん、てん... とまっすぐにわきめもふらずに進んでいくかのような足跡が続いています。まるで一本足かのように てん、てんと...

この「まっすぐ」「一本足」「広い場所」がそろそろ、その足跡はほぼ「ぎっね」に間違いありません。でも、ぎっねは4本足があるはずですが、なぜ1本のように足跡がつくのでしょうか？ それはぎっねが前足でつけた足跡の上に後足を重ね、まるでモデルのように歩いているからなのです。なるべく雪の中に沈みこまぬように工夫しているのですね。そして、この一本足のように見える時は小走りの時が多く、立ち止まったり、ゆっくりと歩くと4つしっかりと足跡がついている時があります。急な登り坂やブレーキをかける下り坂なども、ふんばっているのです4つ足跡がついているのをみられます。

まっすぐのぎっねの足跡を追いかけてみたら、ぎっねが何をめざしているのか、どこで立ち止まったのか、想像しながら歩く雪上散歩は今の季節ならではのオススメです！



: 菜々鬼